

あなたに伝えたい
～ピアサポーターからの
熱きメッセージ～

麻生区自立支援協議会
児童委員会
麻生養護学校 小玉美津子

麻生区ピア・サポーター支援 のはじまり

平成22年度 麻生区障害児の地域生活検討会議

- 1) 障害のある子ども地域生活に必要な支援サービスのありかたについての検討
- 2) 障害のある子どもの保護者のためのピアサポート支援の試行

1) の取り組み

H22年度アンケート実施

保護者自身にとって必要な支援

保護者が不調時、緊急時の預かり、在宅支援

レスパイト機能

気軽な相談・カウンセリング

保護者の精神的ケア

保護者同士の交流・ピアサポート

ピアサポート支援の試行

- ピアサポーターの養成研修
- ピアサポーターの広報及び利用支援
- ピアサポートの実践をとおして、その必要性及び継続的な実施体制のための検討

第3次かわさきノーマライゼーションプラン改定版（H24,3）より

在宅生活を支える地域づくり

- 同じような障害や悩みを持つ当事者だから理解できたり、「当事者だからできる支援」を提供するため、障害のある人が主体となったピアサポートのしくみづくりや当事者活動に対する支援が求められています。
- 精神障害者のみならず、視覚障害者などの身体障害者、あるいは知的障害者の家族などについても、障害者自身や家族によるピアサポートが重要となっています。

取組の内容

- ◆ 当事者による相互援助を広めていくための普及や啓発やピアサポーターの養成、コーディネーターなどを行う精神障害者ピアサポーター養成研修・支援事業を実施します。
- ◆ 当事者団体の取り組みに対する支援を充実します。

- 新たに加える保護者が少ない
- 団体の高齢化

ピアサポーター紹介

北部地域療育センター出身のお母さん方

ひよっこり

• ダウン症児

げんきいっぱい

• LD
• (発達障害)

にこりん

• 障害をもった乳幼児～就学前

ほっとぴあ

• 重症心身障害児

肢体不自由父母の会

• 肢体不自由児

ピアサポーター事業の実現へ

サポーターの養成

- サポーターの養成講座
- サポーターの障害別人員確保

社会資源として

- 相談事業所に
- 療育センターに
- 出張相談

PR

- 自立支援協議会への働きかけ
- 教育機関への働きかけ

肢体不自由児のお母さんの声

生まれて半日後位、まだ私が抱っこもしていないのに救急車で総合病院に運ばれました。そのときはすでに呼吸は止まり、かろうじて心臓が動いている状態で、何が起きたのか？理解できませんでした。病院の先生には「低酸素脳症で障害が出る可能性が高いので、リハビリを早く始めてください。それができる大きい病院を選んだほうがいいですよ・・・」と言われました。障害ということがどういう事なのか？

歩けない位かな？発達が遅いくらいかな？その時に考えられるのはそのくらいでした・・・

肢体不自由児のお母さんの声・・・

〇〇は、36才の時の子どもです。初めての出産でした。親にはならない人生なのかと思っていた私にとって思いがけないサプライズでした。3ヶ月健診の頃に私の中で「何かがおかしい」と思うことが増えてきました。3ヶ月健診では、意を決して相談コーナーに並びました。結果は散々でした。笑わないのは、お母さんがあやさないからだ、叱られました。この時の途方にくれた気持ちは今でも思い出すくらい強く深いものでした。

こどもの成長はママの成長？

覚悟を決めたと言っても、「何故出来ないの？」と息子に当たったこともありました。色々な気持ちを落ち着かせてくれたのは、会のお母さん方とお話することでした。悩みも笑い話となり元気になりました。お母さんが元気だと子どもに対する受容力が増し、優しくなれます。本当に子育ては大変ですよ。でも息子のおかげで価値観が変わり、夫婦ともども友達の輪が広がりました。覚悟はしていても落ち込むこと、泣くこともあります。でも一人で悩まないで皆にふって一緒に悩んでもらいましょうと思っています。

こどもの成長を振り返って

言葉の遅れと多動で目が離せなくて、いつも走って追いかけているような毎日でした。幼稚園入園と身辺自立を目標にし、たくさん悩み、たくさん泣き、余裕が無く精神的にはきつい時期でした。

わが子に障害があると分かり出口の見えないトンネルに入ってしまったように感じましたが、悩んだ泣いた分、多くの人との出会いがあり支援をしていただきました。ありのままの我が子を受け入れ、愛して横に並んで寄り添って共に成長できればいいと思えるようになりました。

「告知」・・・悲痛な叫び

ショックでした。え！なんで？どうして？ご飯がのどを通らないの言葉通り食欲のない状態も初めて経験しました。ダウン症の顔に特徴があって、お世辞にもかわいいとは思えませんでした。社会から排除されるのではないか、不幸な人生を送るのではないか、何よりこの子を育てていけるのかとの思いで頭がいっぱいでした。そんな時‘ひよっこり,という川崎北部地区のダウン症児をもつ親の会を紹介され、2歳のお子さんをもつお宅に伺うと、わが子を抱っこして「かわいいわねー」と言ってくださり涙が出るほど嬉しかったのを覚えています。

四つのハンディキャップ

第1子として産まれて間もなく知らされた事実にも
明るい未来が一変暗雲に立ち込めた瞬間でした。後にも
先にもこれほどショックな出来事はなかったと思
います。実は出生前にも羊水過多、頭が大きいなどの
症状がありましたが、その原因は判明しておらず
私たちも異常との認識はありませんでした。でも医
師からは成長の遅れや歩行にも支障が出るかもしれ
ないと聞かされ、出産の喜びから不安の渦に追い込
まれたような気持ちになりました。今は・・・
ハンディキャップがあることを卑屈に思うことなく
自分なりの生活を精一杯おくらせてもらいたいと願っ
ています。

ピアサポート活動を支える 仕組み作り

親の会の活動
ピアサポート活動の活性化

活動場所の
確保

活動経費の
助成

活動を支え
る研修等

社会福祉協議会、こども支援室、区民協働推進部等

25年度の取り組みとして

- ピアサポーターさん同士のGディスカッション
- 地域支援級 出張相談会の試行
- 卒業後の暮らしを知る機会を設け、さらに親同士の交流の場を設ける
- 自立支援協議会にサポーターさんを紹介し、まずは支援者に知ってもらいたい

グループディスカッション

- 親同士がつながる場の提供が必要
- サポーターとしての知識吸収の場がほしい
- グレーゾーンの方への支援の場がない
- 親の会等、各団体同士のつながりを深めたい
- 出張相談会は学校の理解にも通じるので、その仕組みを構築したい
- 親同士の口コミ情報、親同士の悩みの共有は支援者にはない支援

今後の展望

ピアサポーターの活動を支える仕組み

団体の活動の広報

ピアサポーターさんを当事者として
児童委員会のメンバーに